

懐かしのラテン!!

ロス・エルマーノス & キミータ

ラテン音楽が大ヒットした 50 年代から 60 年代にかけて、マンボの王様ペレス・ブラードの来日に次いで、メキシコからやってきたのが「トリオ・ロス・パンチョス」であった。頭には大きなソブレロ、肩からサラッペという色彩豊かな布をかけ、チャロと呼ばれるメキシコのカウボーイの正装に身をかためて、3人の男性がギターを弾きながら歌うスタイルに日本中が熱狂した。そしてアイ・ジョージ、坂本スミ子などのラテン歌手や、東京キューバン・ボーイズや有馬徹とノーチェ・クバーナなどのフルバンドも登場して、ラテン音楽は大いに盛り上がった時代であった。

その頃、早稲田大学に入り「トリオ・ロス・パンチョス」に憧れてトリオを結成した若者たちがいた。学生時代はトリオでひたすら腕を磨き、学園祭は勿論、ホテル等でもプロ同様の活躍であった。卒業後彼等はそれぞれに音楽の道を歩んだが、再び出会い「ロス・エルマーノス」(兄弟たち)と名付けて活動を再開した。各自それぞれの道で積んできた経験を基に、より一層円熟味を増したヴォーカルやハーモニー、そしてギターテクニックの的確さと相まって、ラテン・ファンの間では密かな人気となってきている。熟年トリオの素晴らしいハーモニーとギターの音色が醸し出すラテンヒット曲の数々は、懐かしいあの頃を思い出させてくれる事でしょう。



大野 春樹 [セカンド・ヴォーカル/ギター]

東京都出身。中学時代にラテン音楽に魅せられ、高校時代、早稲田大学時代とアマチュアのラテン・トリオを結成し活動していた。卒業後、プロとなりメキシコに渡り2年間ほど滞在し、本場のメンバーを加えて現地でトリオで活動し技を磨いた。帰国後、メキシコ女性を加えたトリオで活躍するが解散。その後、ソロ活動や他のメンバーとラテン・トリオ「パライソ」を結成し活動し、現在に至る。その歌声とギター・テクニックは日本でも有数の実力と認められており、多くのファンを魅了している。

ジロー (三村 秀次郎) [サード・ヴォーカル/レキント・ギター]

長野県出身。早稲田大学在学中にラテン・トリオを結成し、レキント・ギターを担当。卒業後、帆足まり子とラテン・デュオ「マリキータ&ジロー」で活躍。76年から3年間NHKスペイン語講座にレギュラー出演し、その番組で歌った曲がテイチャ・レコードより発売し好評を得る。

70年後半から国際交流基金の助成を得ながら、「アミーゴ・ニッポン」で中南米各国200回を越える公演を行う。同様に(株)ミュージック・アミーゴスを設立し、ラテンアメリカより優秀なアーティストを日本に招聘してコンサート、ライブ、などを提供。現在は、後進の指導やギタリスト、日本ラテンアメリカ文化交流協会会長としてラテンとの交流にますます意欲を燃やしている。



キミータ [ゲスト・ヴォーカル]

学生時代よりコーラス部に所属し、ラテン音楽の大ファンであったことから、2000年に本ラテンアメリカ音楽協会主催のアマラン・コンクールに出場し優勝。副賞のメキシコ旅行でおいなる刺激を受け、本格的に音楽活動始める。メキシコのランチェラ(国民歌謡)を得意とし、日本人離れした美しいファルセータ(裏声)は聞き物である。